



「iPhoneアプリ開発講座 はじめてのSwift」 Swift 5 対応ノート

2019/8/13, 2019/9/3, 2019/9/9 山田 泰司 <taiji@aihara.co.jp>

1. Xcode 10 から、p. 226 図「AppDelegate.swift のソースコード表示」の `application(_:didFinishLaunchingWithOptions:)` メソッドの第2引数 `didFinishLaunchingWithOptions` に指定するオプション型の Dictionary 型のキーが `UIApplicationLaunchOptionsKey` から `UIApplication.LaunchOptionsKey` に変更になりました。言い換えれば、大域定数のそれから `UIApplication` クラスの定数の型プロパティ `LaunchOptionsKey` に移行されたということになります。ここは、テンプレートで生成されるコードなので、他のアプリも同様。
2. Xcode 10 から、p. 232 図「Storyboard の画面構成」のユーティリティエリアのライブラリは、
`⇧⌘L` … View → Libraries → Show Libraries メニューまたは
`⇩⇧⌘L` … View → Libraries → Open Libraries メニュー、もしくは、
ツールバーエリア右側の「」ボタンまたは `option` を押しながら「」ボタンで選ぶように、変更されました。よって、例えば、p. 233 図「ビューの追加」などにおいて、ユーティリティエリア内にはライブラリペインはありませんので、上記のいずれかの方法で表示させてから操作して下さい。`option` を押しながら表示させた場合、ライブラリがいちいち非表示にならないので、続けて操作するとき便利です。他の場面も同様。
3. p. 264 のコード内
`currentOperator = .undefined` → `currentOperator = .undefined`
単なる誤植。
4. p. 276 のコード内
`func update() { … }` → `@objc func update() { … }`
Swift 4 から生成する Selector インスタンスのメソッドには「コンパイラディレクティブ `@objc`」が必要になりました。
5. p. 287 のコード内
`let region =
MKCoordinateRegionMakeWithDistance(current.coordinate, 500, 500)
↓
let region =
MKCoordinateRegion.init(center: current.coordinate,
latitudinalMeters: 500,
longitudinalMeters: 500) // .init は省略可`

Xcode 10 から仕様変更されました。本文の説明についても同様。（こうした大域的な名前空間の節約に関する仕様変更は他にも多々あるので、Xcode の補完機能で容易に推測できるかと思われます。）

6. p. 321 のコード内

```
func collectionView(_ collectionView: UICollectionView, cellForItemAtIndexPath indexPath:
IndexPath) -> UICollectionViewCell {
    return UICollectionViewCell()
}
```

↓

```
func collectionView(_ collectionView: UICollectionView, cellForItemAt indexPath: IndexPath) -
> UICollectionViewCell {
    return UICollectionViewCell()
}
```

単なる誤植

7. Swift 5 から、本書には登場しませんが、String 型がコレクション化され、必要だった `.characters` は不要になりました。例えば、文字列の長さ `"Hello Swift".characters.count` は `"Hello Swift".count` とする必要がありません。